歳時記のある暮らし

二〇二一年《四月》

やわらかな春風を感じ心華やぐころとなりました。

皆様、おすこやかにお過ごしでしょうか。

いつも『神秘の健康力』をご愛用いただき誠にありがとうございます。

春の曲

喜びに満ちた大自然がいよいよ春の色を帯びてきた。

葉っぱたちはそよ風に揺れて、そしてさわやかに朝露を浴びた。

ロバート・バーンズというスコットランドの詩人による詩です。日本でも有名な「蛍の光」の原曲は、このバーンズが手掛けた民謡です。

陽光を受けて草木が成長し、木蓮、桜、コブシ、雪柳、ヤマブキなどが可憐な花を咲かせます。風が吹くとあっけなく散ってしまうのが春の花たちの特徴です。見ごろが過ぎないうちに美しい花々の咲き誇る姿を目に焼きつけておきたいものです。

コロナ禍でお花見の楽しみも奪われましたが、桜花の下で飲食を楽しむお花見は、稲作と密接な関係がありました。桜の語源は「サ」と「クラ」に分けられ、「サ」は田の神様を、「クラ」は神様が鎮座する場所を意味するそうです。昔々、田の神様は普段は山の上にいて、春になると里に降りて桜の木に宿りました。すると桜は開花して、人々はそれをきっかけに田植えを始めました。

稲は、気温が十五度以下では苗が育ちません。一方、桜は十五度を超えると開花を始めるといわれます。そこで桜の開花が田植えのタイミングとなったようです。人々は、田の神様が宿る桜に供え物をして祀りました。祀りが終わると桜の下で供え物を皆で分けあい、お花見の起源となりました。

四月四日はイースター。イエス・キリストの復活を祝うお祭です。イースターの日は、春分の日の後に訪れる最初の満月の次の日曜日とされています。春分の日は、一年間の太陽の通り道(黄道)を分割して決められ毎年日付が変わるため、イースターも毎年変わります。今年の春分の日は三月二十日の土曜日。満月になるのは三月二十九日の月曜日。よって二〇二一年のイースターは四月四日の日曜日になります。

イースターには絵具でペイントしたたまごを作ります。たまごは新しい命の象徴であり、キリストの

(裏へ続きます)

復活を祝うのにふさわしいアイテムとされています。イースターに登場するうさぎはイースターバニーと、われ春にたくさんの子どもを産むことから、多産の象徴で子孫繁栄の願いがこめられています。

四月八日はお釈迦様の誕生日を祝う「花祭り」。灌仏会、仏生会、浴仏会、龍華会、降誕会などともいわれ、花で飾った小さなお堂の中の、生まれたばかりのお釈迦様である誕生仏に甘茶をかけて祝います。甘茶をかけるのは、お釈迦様が生まれたとき、天から甘露が降り注いだからだとか。そのときお釈迦様は四方に七歩ずつ歩かれて、「天上天下唯我独尊」といわれました。「私たち一人一人の命はそのまま尊い」という意味です。お釈迦様が七歩歩かれた意味ですが、実は六というのは、仏教では苦しみ続ける迷いの世界の「六道」を意味します。その六道から離れる道を明らかにするために、プラス一歩の七歩を歩かれたといわれます。花祭りは命の尊さを思い、誰もがみな幸せになる道について考える日でもあるのですね。

四月は、田の神様をお迎えする花見、イースター、花祭りなど生命の息吹を感じる行事に満ちています。昔は豊作や無病息災を神仏に祈願して、日照りが続けば祈り、病になれば祈ってきました。今では季節の風物詩として行事や祭りが残っているものの、祈る心は薄らいだように思います。けれども、コロナ禍を経験して人間の力では抗することのできない自然の猛威にあらためて気づき、マスク騒動やコロナ差別と呼ばれる現象を通じて人間の煩悩を知りました。そんな今、祈ることで心の落ち着きを取り戻そうとする人は増えたかもしれません。

家庭で過ごす時間が増えた新しい日常では、「丁寧な暮らし」という言葉が雑誌などで話題となりました。素敵な家具、シンプルで清潔な部屋、ヘルシーな料理で飾られ、新しい「豊かさ」や「贅沢」を提案しています。けれども本当の丁寧な暮らしとは、見た目や形だけではなく、その人にとって健康的で心が快適と思える生活を実践することだと思います。

生命の息吹あふれる四月、自分なりの健康で快適な暮らしについて考えてみたいものです。

花冷えという言葉もあるように春の陽気は信用なりません。四月下旬くらいまでは寒さ対策をなさってください。

皆様のご健康をお祈り申しあげます。

金氏高麗人参株式会社
おもてなし係お手紙担当　久郷直子